

# かいじょうちゅうがくこうとうがっこう 海城中学校

## げんがくぶ 弦楽部

### わくきしんし 若き紳士18人が奏でる 弦楽のハーモニー

ヴァイオリンやチェロなどの弦楽器で音楽を奏でる「弦楽部」は、創部から7年目のフレッシュさが持ち味。6学年全員で活動し、先輩・後輩の垣根を越えてレベルアップに励んでいます。メインイベントは9月に開かれる海城祭の「オータムコンサート」。1年間の練習の成果を、心を込めて披露した。

7年目のフレッシュさが持ち味。6学年全員で活動し、先輩・後輩の垣根を越えてレベルアップに励んでいます。メインイベントは9月に開かれる海城祭の「オータムコンサート」。1年間の練習の成果を、心を込めて披露した。

いい音楽を届けるために  
妥協せず、ベストを追求！



チエロ独特の落ち着いた低音を響かせる中3の川筋君。あるいはやさしく穏やかに、あるいは情熱的に、弦楽器ならではの豊かな表現力に、演奏者も観客も一体となって酔いしれることができるのが弦楽器の魅力だとか。部員たちは、楽器とは「親友」のような関係で、日々練習を積んでいる。

「弦楽器ならではの透明感ある響きで観客を魅了」

2万人が来場する海城祭での弦楽コンサート



講堂入口には開場前から長蛇の列が。保護者やクラスメイト、海城祭を見学に来たたん親子などにぎわった。

司会は部長の鷲尾君。会場を盛り上げる！



開演前に活動紹介のスピーチで会場を和ませる部長の鷲尾君。笑顔が明るい元気キャラだが、部員たちがスムーズにスタンバイできるよう細かな気配りも忘れない。

18人全員の持ち味が光る！  
終演後は最高の笑顔に



フィナーレは映画「サウンド・オブ・ミュージック ハイライト」の合奏で全員が舞台に戻ってきた。約1時間のプログラムで18人の部員全員がそれぞれの持ち味をキラリと光らせたコンサートとなった。



アイネ・クライネの全員合奏からスタート

開演前の音合わせ。会場準備や受付もチームワークで乗り切る。ほかの部活と両立しているうちに弦楽部をメインにする生徒や、高校に進学してから入部てくる生徒など、門戸を広くしているのも弦楽部の雰囲気のよさにつながっている。



オープニングはモーツアルトの「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」から第一楽章を全員合奏。軽快なりズムに乗って部員たちも観客も緊張感がほぐれていく。続くチエロ、ヴァイオリン、ヴィオラなどの独奏曲では一人ひとりの演奏力が際立つた。引退した高3生が飛び入り参加するなど飽きさせない秀逸なプログラムだった。

「新しい紳士」を育成する海城中高。若き紳士18人で構成される弦楽部は、前身のヴァイオリン同好会時代も含めて創立7年目と歴史は浅いですが、音楽にかける思いはだれにも負けない熱いものがあります。今年の海城祭では、1号館の講堂で「オータムコンサート」を開き、アイネ・クライネ・ナハトムジークなど全9曲を披露しました。

部のモットーは「聴いてもらう音楽を作り上げること」。放課後の練習はほぼ毎日。海城祭や春の定期演奏会が近づくと朝練も加わります。入部にあたって楽器の経験は問いません。幼稚園や小学校のころからヴァイオリンやチエロを習っている上級者もいれば、中学で初めて楽器に触れたという初心者も。先輩・後輩の区別なく、生徒同士が教え合い

リベラルでフェアな精神を持った若き紳士」を育成する海城中高。若き紳士18人で構成される弦楽部は、前身のヴァイオリン同好会時代も含めて創立7年目と歴史は浅いですが、音楽にかける思いはだれにも負けない熱いものがあります。今年の海城祭では、1号館の講堂で「オータムコンサート」を開き、アイネ・クライネ・ナハトムジークなど全9曲を披露しました。

部のモットーは「聴いてもらう音楽を作り上げること」。放課後の練習はほぼ毎日。海城祭や春の定期演奏会が近づくと朝練も加わります。入部にあたって楽器の経験は問いません。幼稚園や小学校のころからヴァイオリンやチエロを習っている上級者もいれば、中学で初めて楽器に触れたという初心者も。先輩・後輩の区別なく、生徒同士が教え合いながら演奏力を高めています。

大学の学生オーケストラに所属しているO.B.や、楽器経験のある保護者に教えてもらう機会も多く、縦の人脉が広がるのも魅力です。部員数も増えてきたので夏休みの練習合宿も企画してみたいと意気込みます。

初心者の多さや部としての組織の未熟さに甘えず、「聴かせる演奏」を求めて練習を重ねてきた弦楽部。その熱い思いが伝わったのか、オータムコンサートの会場には、観客の大好きな拍手がいつまでも鳴り響いていました。



かいじょうちゅうがくこうとうがっこう  
海城中学校  
かいじょうちゅうがくこうとうがっこう  
海城高等学校

「国家・社会に有為な人材の育成」を建学の精神として、明治24(1891)年に海軍予備校として創立。創立者の古賀喜三郎が会った英國紳士の姿が同校の理想とするフェアで思いやりのある人間像につながっている。現校長の柴田澄雄先生は国際経験豊かな元商社マン。



せんぱい  
先輩の  
声

弦楽部で活躍中の先輩の声を紹介します！



春の定演で引退して、久しぶりに合奏を聞いたら「ここまで来てくれたんだ」と感慨深かったです。大学に進学しても音楽は続けます！



弦楽器の良さは耳元で聞いていて気持ちがいいところ。先輩たちの活躍を次につなげられるように部長として組織をしっかりと形づくりたいです。



勉強でもスポーツでも、何か一つ熱中できることがあるといいと思います。僕の場合はそれがヴァイオリン。常に本気で上をめざしたいです。



顧問  
せんせい  
先生の  
声

高校1年生が数人集まった同好会からスタートしたので、年々パワーアップしている様子を見ると、みんなでよく頑張ってきたなと思います。